

**フィリピンにおけるコミュニティ隔離措置の最新状況**

IATF(新型コロナウイルス感染対策のための省庁横断タスクフォース)の関連決議概要(仮訳)

【出所】 IATF 決議 35~43(及び Omnibus Guidelines)  
<https://www.covid19.gov.ph/issuances/>

大統領府ロケ報道官記者発表資料(2020年5月13日発表、MECQに関するガイドライン)  
<https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/05/NTF-Guidelines-in-Modified-Enhanced-Community-Quarantine.pdf>

【適用期間】 2020年6月1日~同6月15日 同6月15日以降の措置については未発表

【隔離措置の種類】	上に行くほど厳格な制限
ECQ(Enhanced Community Quarantine)	強化されたコミュニティ隔離措置
MECQ(Modified Enhanced Community Quarantine)	修正を加えた、強化されたコミュニティ隔離措置
GCQ(General Community Quarantine)	一般的なコミュニティ隔離措置
MGCQ(Modified General Community Quarantine)	修正を加えた、一般的なコミュニティ隔離措置

【各隔離措置の適用地域】

各地域の長は、IATF 支部の同意を得たうえで、所管地域内の特定の地区や事業所に限定した、独自の隔離措置を適用してもよい。

ECQ	なし
GCQ	<ルソン地方> NCR: マニラ首都圏(※) I: イロコス地域(パンガシナン州) II: カガヤン・バレー地域(バタネス州、カガヤン州、イサベラ州、ヌエバ・ビスカヤ州、キリノ州、サンティアゴ市) III: 中部ルソン地域(アウロラ州、バタアン州、ブラカン州、ヌエバ・エシハ州、パンパンガ州、タルラク州、サンバレス州、アンヘレス市、オロンガポ市) IV-A: カラバルソン地域(カビテ州、ラグナ州、バタンガス州、リサール州、ケソン州、ルセナ市) <ビサヤ地方> VII: 中部ビサヤ地域[ボホール州、セブ州、ネグロス・オリエンタル州、シキホール州、セブ市(※)、マンダウエ市、ラプラプ市] <ミンダナオ地方> IX: サンボアング半島地域(サンボアング市) XI: ダバオ地域(ダバオ市)
MGCQ	GCQ の適用地域を除く全地域: <ルソン地方> CAR: コルディリエラ地域(アブラ州、アパヤオ州、バギオ市、ベンゲット州、イフガオ州、カリंगा州、マウンテン・プロビンス州) I: イロコス地域(イロコス・ノルテ州、イロコス・スル州、ラ・ウニオン州、ダグパン市) IV-B: ミマロパ地域(マリンドゥケ州、オクシデンタル・ミンドロ州、オリエンタル・ミンドロ州、ロンブロン州、パラワン州、プエルトプリンセサ市) V: ビコール地域(アルバイ州、カマリネス・ノルテ州、カマリネス・スル州、カタンドゥアネス州、マスバテ州、ソルソゴン州、レガスピ市、ナガ市)

MGCQ (続き)	<p>&lt;ビサヤ地方&gt;</p> <p>VI: 西部ビサヤ地域(アクラン州、アンティケ州、カピス州、ギマラス州、イロイロ州、ネグロス・オクシデンタル州、イロイロ市、バコロド市)</p> <p>VIII: 東部ビサヤ地方(ビリラン州、東サマール州、レイテ州、北サマール州、西サマール州、南レイテ州、オルモック市、タクロバン市)</p> <p>&lt;ミンダナオ地方&gt;</p> <p>IX: サンボアング半島地域(サンボアング・デル・ノルテ州、サンボアング・デル・スル州、サンボアング・シブガイ州、イサベラ市)</p> <p>X: 北部ミンダナオ地域(ブキノドン州、カミギン州、ラナオ・デル・ノルテ州、ミサミス・オクシデンタル州、ミサミス・オリエンタル州、カガヤン・デ・オロ市)</p> <p>XI: ダバオ地域[ダバオ・デ・オロ州(旧コンポステラ・バレー州)、ダバオ・デル・ノルテ州、ダバオ・デル・スル州、ダバオ・オクシデンタル州、ダバオ・オリエンタル州]</p> <p>XII: ソクサージェン地域(北コタバト州、南コタバト州、サラングニ州、スルタン・クダラット州、ジェネラル・サントス市)</p> <p>XIII: カラガ地域(アグサン・デル・ノルテ州、アグサン・デル・スル州、ディナガット・アイランズ州、スリガオ・デル・ノルテ州、スリガオ・デル・スル州、プトゥアン市)</p> <p>BARMM: バンサモロ・ムスリム・ミンダナオ自治地域(バシラン州、ラナオ・デル・スル州、マギンダナオ州、スルー州、タウイタウイ州、コタバト市)</p>
--------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※ マニラ首都圏とセブ市について、高リスク地域であるにもかかわらず GCQ に緩和したため、公衆衛生基準の順守や医療体制等の状況等を注視する。セブ市は詳細なゾーニング計画を提出すること。

【認められる活動】 下線部は6月3日の変更点

	ECQ	MECQ	GCQ	MGCQ
外出	認可された事業所での勤務、生活に必要な物資やサービスを得る場合に限定される。 (ただし、運動、集会、学校については下記参照) <u>MGCQにもGCQと同じ制限が適用された</u>			
運動	不可	マスク着用、他者との距離確保、道具の共用なしで、他者との接触のない屋外スポーツは可能(ウォーキング、ジョギング、ランニング、自転車)	MECQに加えて、ゴルフ、水泳、テニス、バドミントン、 <u>射撃</u> 、乗馬、スケートボードも可能。クラブハウスも基本的なサービスに限り営業可能。	屋内、屋外を問わず、他者との接触のないスポーツは可能。
集会	不可	宗教関連の会合は5名まで可	宗教関連の会合は10名程度まで可	会場定員の半分まで可
交通	公共交通運休、航空は限られた国際便のみ	航空:限られた国際便管理された入国(フィリピン人の帰国等) 自転車など動力装置のない交通手段を奨励	乗員間の距離を確保し、安全管理を徹底した上で公共交通運行	公共交通、民間交通機関ともに、運輸省ガイドラインの下で通常通り運行(ただし、乗員間の距離を1m以上確保)
学校	対面授業は中止 (学校施設閉鎖)		(基礎教育)2020年8月24日~2021年4月末を想定 (高等教育)2020年9月開講を想定 対面授業は最小限の運営	対面授業も <u>限定的に</u> 可能 (衛生管理を徹底。地方自治体の了解が必要)
政府	最小限の人員が出勤、他は在宅勤務等		全員出勤も可能(代替勤務形態を推奨)	

【交通規制】 MGCQ では公共交通を通常運行(乗員間の間隔を 1m 以上確保)、私用交通も通常運行可能。

公私	交通手段	ECQ	MECQ	GCQ
公共	鉄道、バス、ジー プニー、タクシー、 TNVS (GRAB 等)	不可	不可	可能(積載乗員数 に制限あり)
	トライシクル		内務省または地方自治体の ガイドラインによっては可能	
	公共シャトル	可能(感染対策等の現場 関係者用)	可能	
私用	私用シャトル	陸運局から認可を得てシャトルを借り上げ (MECQ は定員の 50% まで搭乗可能)		可能
	私用車	関係当局から認可された事業/活動に従事する者 (MECQ は座席 1 列当たり乗員 2 名まで)		
	自転車、バイク、 電動スクーター	不可	1 名のみ	

【MECQ 適用地域での建設工事に関する留意点】

【所管官公庁】 公共工事: 公共事業道路省 民間工事: 地方自治体、労働省(労働基準)	
<p>【施工前の準備事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病歴のない 21 歳～59 歳に限る</li> <li>・施工者負担で事前に検査</li> <li>・現場詰所に隔離施設を設け、感染の疑いのある従業員が発生したら私用シャトルで輸送する。</li> <li>・現場の従業員は通行パスを取得する。</li> </ul>	<p>【工事中进行うこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場詰所内も含め、従業員間で 1m 以上の距離を確保する</li> <li>・毎日、消毒を行う。</li> <li>・工事現場からの外出は最小限とする。</li> <li>・工事現場に入ってきた者に検疫を義務付ける。</li> <li>・配達や廃棄は別のチームが行う。</li> <li>・各従業員に個人防護服を支給する。</li> <li>・衛生管理監督者を配置する。</li> </ul>

※ 公共事業道路省 建設安全ガイドライン(2020 年 5 月 19 日発表、改訂版)

[https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/05/DO\\_39\\_s2020.pdf](https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/05/DO_39_s2020.pdf)

【産業カテゴリー別の認可業種】

注釈： 営業／操業を行う人員体制

- ☆ 通常(100%)
- ◎ 通常の 50～100%
- 通常の 50%以下
- △ 最小限
- × 営業／操業は不可

(参考:フィリピン及び外国の政府機関、国際機関)

	ECQ	MECQ	GCCQ	MGCQ
フィリピンの政府、地方自治体		△		☆
フィリピン外務省が認可する外交団及び国際機関の職員		△	○	☆
フィリピン政府、地方自治体が認可した人道支援活動を行う団体	△			☆

(第1種産業カテゴリー) MGCQ は通常(100%)の人員体制で営業／操業が可能

業種	ECQ	MECQ	GCCQ
農林水産業及びその流通		☆	
医薬品、医療用品・器具の製造・原材料や包装資材の供給・流通			☆
生活に必要な不可欠な物資(食品、ビタミン剤、石鹼、洗剤、おむつ、生理用品、トイレットペーパー、ウェットティッシュ、消毒剤等)の生産者や流通に関わる民間事業者(公設市場、スーパーマーケット、食料品店、コンビニエンスストア、クリーニング店、テイクアウトと配送サービスのみのお食店、飲用水の補給サービス、その他は貿易産業省が認めるもの)	○		☆
病院		☆	
医療や緊急対応を要するサービス(人工透析センター、化学療法センターなど)			☆
診療所(皮膚科、歯科、眼科、耳鼻咽喉科など。美容関連クリニックは除く)。			☆
航空事業者、航空機のメンテナンス、パイロット、航空機の客室乗務員、航空学校の従業員、船舶の船長と乗務員、造船所における造船と修繕	△		☆
生活に必要な物資(食料品、医薬品、衣料品、アクセサリ、ハードウェア、家庭用品、学校用品、オフィス用品、ペットフード、ペット用品)の配送またはクーリエサービス(自社対応または外部委託を問わない)			☆
水の供給と公衆衛生に関する施設とサービス(廃棄物処理、不動産やビルの管理を含む)			☆
通信事業者、インターネットプロバイダー、ケーブルテレビ事業者、及びそれらの営業やメンテナンス等のサービスを担う外部委託事業者			☆
エネルギー・電力の事業者及びその取引先やサービス・プロバイザー〔送電、配電、発電、電力の小売、石炭・原油・石油・石油製品・その他の発電燃料の採掘・製造・流通(ガソリン・ステーション、石油の精製所や貯蔵所を含む)〕	△		☆
公共事業道路省のガイドラインに基づいて認められる公共工事(隔離施設、医療施設、災害対策、災害復旧、下水、水道設備、デジタル通信設備など)と民間工事(食品製造、農業、漁業、エネルギー、住宅、通信、水道、製造業、IT-BPO) MECQ、GCCQ ではその他の工事も可能(ただし、MECQ では小規模な案件は不可)。			☆
MRT3 号線改修など 13 の鉄道工事に従事する、運輸省が認可する建設作業員。現場またはその付近での宿泊施設、通勤シャトルサービスの手配が望まれる。	○		
セメントや鉄鋼製品など、建設に必要な機器や資材を製造・供給する事業者	△		
報道事業者(ECQ:DOLE 及び PCOO に登録した者のみ勤務可能)	○		

(第2種産業カテゴリー) MGCQは通常(100%)の人員体制で営業/操業が可能。

業種	ECQ	MECQ	GCQ
その他の製造業 ・飲料(例:アルコール飲料) ・電気機械 ・木製品、家具 ・非金属製品 ・繊維製品、衣料品 ・タバコ製品 ・紙及び紙製品 ・ゴム製品、プラスチック製品 ・コークス、精製した石油製品 ・その他の非金属鉱産品 ・コンピュータ、電気製品、光学製品 ・電気器具 ・機械、器具 ・自動車、トレーラー及びセミトレーラー ・その他の輸送機械 ・その他	×	○	◎
電子商取引事業者	×		
郵便、クーリエ、配達サービス (ECQはフィルポスの従業員のみ)	△	☆	
(鉱業・採石業を含む)輸出主体の事業者。 ECQ:在宅勤務、職場または近隣における従業員の宿泊施設の確保、通勤用シャトルサービス手配のいずれかを行うこと。 MECQ:職場または近隣における従業員の宿泊施設の確保は不要。			
不動産事業(賃貸)			
不動産事業(賃貸以外)	×	○	◎
コンピュータや住宅営繕を含む各種機器の修理やメンテナンス	△	☆	
電気工事や外装工事等のハウジング・サービス	×		
オフィス管理、オフィスサポート等のビジネス活動(コピー、請求書発行など)	×	○	◎
ホテルまたは類似施設は、営業を禁じる(ただし、以下の者に対しては、最小限の人員体制で宿泊提供のみ可能)。レストラン、バー、ジム、スパ等の施設内付属施設による宿泊客向けサービスは認められない。また、宿泊施設が、宿泊客に同じ弁当を配ったり、テイクアウトや配達サービスの注文を受けたりすることは認められる。 a. ルソン地方において2020年3月17日時点で予約を確保していた外国人、またはルソン地方以外において2020年5月1日時点で予約を確保していた外国人 b. すでに長期の宿泊予約を確保していた者 c. 困窮したOFW(フィリピン人の海外就労者)、身動きの取れないフィリピン人や外国籍の者 d. フィリピンに帰還し、所定の隔離措置を受けるOFW e. OFW以外で、強制的な隔離措置を行う必要がある者 f. 保健関係者など、政府が営業/操業を認めている業種に従事する者		△	
葬儀を行う際の牧師や祈祷師など宗教関係者。新型コロナウイルス以外の原因で死亡した場合、故人の近親者が葬儀に出席することは認められる 葬儀・遺体衛生保存サービス。 ただし、関係者の宿泊施設またはシャトルサービスを手配すること。	△	☆	
獣医クリニック(動物病院)			
警備員			
IT-BPO(ITを活用したビジネス・アウトソーシング・サービス)事業者。 ECQ:在宅勤務、職場または近隣における従業員の宿泊施設の確保、通勤用シャトルサービス手配のいずれかを行うこと。 MECQ:職場または近隣における従業員の宿泊施設の確保は不要。			

(第3種産業カテゴリー) MGCQでは通常通り営業/操業が可能(※、\*) **下線部は6月3日の変更点**

業種	ECQ	MECQ	GCQ
銀行、送金サービス、マイクロファイナンス、送金サービスが可能な質屋、信用組合、現金輸送サービス	△	☆	
資本市場(中央銀行、証券取引所等)			
その他の金融サービス(両替、保険、再保険、非強制の年金基金)			
法務、会計サービス			
経営コンサルタント			
建築、エンジニアリング、関連する技術的なテスト及び分析	×	○	
科学研究開発			
広告、マーケティング			
コンピュータ・プログラミング(コード・ライティング、システム・デザインなど)、情報サービス活動(データ・プロセッシングなど) ※			
国税庁またはその他の政府当局に認可されている印刷業(Printing press)	△	☆	
出版・印刷サービス		○	
映画、音楽、テレビ番組の制作			
レンタル及びリース(不動産を除く。認可業種向け自動車や機械などの賃貸)		☆	
認可業種に対する人材サービス(採用など)			
海外での就業に関する人材サービス	×		
写真、各種デザイン			
乗り物(車)及び部品の卸売・小売		○	
乗り物(車)の修理・メンテナンス、洗車サービス			
ショッピングモール、商業施設(娯楽目的以外の小売店舗) ※			
レストラン(配達とテイクアウトのみ) ※			
理容店、美容室 *		×	△
ハードウェア販売店			
衣料品、アクセサリ販売店			
書店、学校用品店、オフィス用品店			
ベビー用品店			
ペットフード、ペット用品	×	○	
情報通信機器、電気機器の販売店			
花、宝飾品、ノベルティグッズ、アンティーク、香水の販売店			
火器と弾丸の取引所(当局指示を厳格に順守すること)			
玩具店(子供向けプレイルームやアミューズメント施設は閉鎖)			

※ MGCQでは、**レストラン、ファーストフード店**、(スーパーマーケット、食料品店、調理済食品販売店など)

食品小売店内のイートインコーナーは席数の50%以下で営業可能。

\* 理髪店、美容室は、保健省の公衆衛生基準や貿易産業省等の指示事項を遵守し、基本的な整髪サービスのみを提供することを条件に、以下のとおり営業再開を認める。

【GCQ】 6月7日から店舗の30%以内で営業し、2週間毎に当局確認を得つつ、50%まで拡大可

【MGCQ】 店舗の50%以内で営業し、3週間後に100%まで拡大可

(第4種産業カテゴリー)

ECQ、MECQ、GCQのいずれにおいても営業/操業を禁止

MGCQでは通常の50%以内の人員体制で営業可能。

フィットネスジム、スポーツ施設
娯楽産業(映画館、劇場、カラオケ・バーなど)
子供向けアミューズメント産業(プレイルーム、遊具など)
図書館、美術館、博物館、その他の文化的施設
観光施設(遊泳場など)、旅行の予約など関連サービス
パーソナル・ケア(マッサージ、サウナ、美顔、ワックスなど)

【参考 1】 新型コロナウイルス感染対策に関する各省政令を包括する指針(Omnibus Guidelines)  
(大統領令第 112 号により 5 月 15 日施行、5 月 22 日、6 月 3 日改訂)

(出所) フィリピン政府 新型コロナウイルス感染対策ウェブサイト

<https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/05/20200522-omnibus-guidelines-on-the-implementation-of-community-quarantine-in-the-philippines.pdf>

(本文) **下線部は 6 月 3 日の変更点**

第 1 節 用語解説(略)

第 2 節 強化されたコミュニティ隔離措置(Enhanced Community Quarantine)

1. 本措置の施行期間中にわたり、保健省の定める公衆衛生基準を順守しなければならない。

※ 保健省省令 2020-0015「新型コロナウイルス感染を抑制するための公衆衛生基準ガイドライン」  
(2020 年 4 月 27 日発表)

<https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/04/ao2020-0015.pdf>

2. 各世帯で厳格な隔離措置が行われるとともに、移動は生活維持に必要不可欠な物資やサービスを利用するか、後述する業種の事業所で勤務するためだけに限定される。

3. 21 歳未満または 60 歳以上の者、免疫不全や合併症等の健康リスクを持つ者、妊婦は、生活維持に必要な物資やサービスを利用したり、認可された事業所で勤務したりするために必要な場合を除いて自宅にとどまるものとする。

4. 以下の活動／個人／事業所に限り、営業／操業できる。これらを行うために ECQ が適用されている地域内を移動することは認められる。

a. 通常(100%)の人員体制で営業／操業が認められる

- i 官民の病院
- ii 医療や緊急対応を要するサービス(人工透析センター、化学療法センターなど)
- iii 医薬品、医療用品・器具の製造・原材料や包装資材の供給・流通
- iv 農林水産業及びその流通
- v 生活に必要な物資(食料品、医薬品、衣料品、アクセサリ、ハードウェア、家庭用品、学校用品、オフィス用品、ペットフード、ペット用品)の配送またはクーリエサービス(自社対応または外部委託を問わない)

b. 通常の 50%以下で営業／操業が認められる。在宅勤務等の代替的な勤務形態を併用。

- i 生活に必要な不可欠な物資(食品、ビタミン剤、石鹼、洗剤、おむつ、生理用品、トイレトペーパー、ウェットティッシュ、消毒剤等)の生産者や流通に関わる民間事業者(公設市場、スーパーマーケット、食料品店、コンビニエンスストア、クリーニング店、テイクアウトと配送サービスのための外食店、飲用水の補給サービス、その他は貿易産業省が認めるもの)
- ii 報道事業者。ただし、労働省に登録され、PCOO(大統領府広報室)で認可された常勤社員の半数以下による営業／操業を認める。
- iii MRT3 号線改修など 13 の鉄道工事に従事する、運輸省が認可する建設作業員。可能な場合、現場またはその付近での宿泊施設、通勤シャトルサービスの手配が望まれる。

c. 最小限の人員体制で営業／操業が認められる。

- i 上記以外の診療所(医療、歯科、リハビリテーション、眼科)。薬局またはドラッグストア。歯科は診療者と患者共に防護服を着用する。身障者向け在宅サービスも認められる。

- ii 獣医クリニック(動物病院)
  - iii 銀行、送金サービス、送金サービスを行う質屋、マイクロファイナンスを行う金融機関、信用組合、現金輸送サービス
  - iv 資本市場(中央銀行、証券取引所等)
  - v 水供給と公衆衛生に関する施設とサービス(廃棄物処理、不動産やビルの管理を含む)
  - vi エネルギー・電力の事業者及びその取引先やサービス・プロバイザー〔送電、配電、発電、電力の小売、石炭・原油・石油・石油製品・その他の発電燃料の採掘・製造・流通(ガソリン・ステーション、石油の精製所や貯蔵所を含む)〕
  - vii 通信事業者、インターネットプロバイダー、ケーブルテレビ事業者、及びそれらの営業やメンテナンス等のサービスを担う外部委託事業者
  - viii 空輸、航空機のメンテナンス、パイロット、航空機の客室乗務員、航空学校の従業員、船舶の船長と乗務員、造船所における造船と修繕
  - ix セメントや鉄鋼製品など、建設に必要な機器や資材を製造・供給する事業者
  - x フィルポスト(郵便)の従業員
  - xi 統計庁の職員。統計処理のほか、国民ID番号システム導入の準備
  - xii IT-BPO(ITを活用したビジネス・アウトソーシング・サービス)事業者と、(鉱業・採石業を含む)輸出主体の事業者。ただし、在宅勤務、職場または近隣における従業員の宿泊施設の確保、通勤用シャトルサービス手配のいずれかを行うこと。
  - Xiii 公共事業道路省のガイドラインに基づいて認められる公共工事(隔離施設、医療施設、災害対策、災害復旧、下水、水道設備、デジタル通信設備など)と民間工事(食品製造、農業、漁業、エネルギー、住宅、通信、水道、製造業、IT-BPO)
  - Xiv 葬儀・遺体衛生保存サービス。ただし、関係者の宿泊施設またはシャトルサービスを手配すること。
  - Xv 政府または地方自治体が認可した、人道的な支援活動を行う団体のスタッフ
  - Xvi 葬儀を行う際の牧師など宗教関係者。新型コロナウイルス以外の原因で死亡した場合、故人の近親者が葬儀に出席することは認められる。
  - Xvii 警備員
  - Xviii 国税庁またはその他の政府当局に認可されている印刷業(Printing press)
  - Xix コンピュータや住宅営繕を含む各種機器の修理やメンテナンス
  - Xx 不動産業(ただし、賃借に限る)
5. 政府、地方自治体は最小限の出勤体制と代替的な勤務体制で運営する。
6. ECQが適用されている間に出勤する政府職員は公用車を利用でき、政府が発行した bona fide ID を提示すれば感染地域内を移動できる。
7. 国会、法廷、オンブズマン事務所、憲法委員会は最小限または代替的な勤務体制で運営する。
8. 外務省が認可する外交団及び国際機関の職員が、外交活動または外務省のガイドラインに沿って行う活動は、最小限の人員体制で行うことができる。
9. **観光省の認可を得たホテル等の宿泊施設は、以下の者に対して、最小限の人員体制で、宿泊サービスを提供できる。**ただし、レストラン、バー、ジム、スパ等の施設内付属施設による宿泊客向けサービスは認められない。また、宿泊施設が、宿泊客に同じ弁当を配ったり、テイクアウトや配達サービスの注文を受けたりすることは認められる。
- a. ルソン地方において2020年3月17日時点で予約を確保していた外国人、またはルソン地方以外において2020年5月1日時点で予約を確保していた外国人
  - b. すでに長期の宿泊予約を確保していた者
  - c. 困窮した OFW(フィリピン人の海外就労者)、身動きの取れないフィリピン人や外国籍の者
  - d. フィリピンに帰還し、所定の隔離措置を受ける OFW
  - e. OFW 以外で、強制的な隔離措置を行う必要がある者
  - f. 保健関係者など、政府が営業／操業を認めている業種に従事する者



10. 大規模な集会(映画上映会、コンサート、スポーツ行事、その他の娯楽活動、地域共同体の集会、宗教に関する集会、不要不急のビジネスに関する集会)は禁止する。ただし、政府や人道支援活動に関する集会はこの限りではない。
11. 対面形式の授業は中止する。
12. 公共交通は運休とする。ただし、新型コロナウイルスの感染対策に従事している者の輸送、認可された事業者の手配する従業員向けシャトルサービスはこの限りではない。
13. 行政当局は、政府が発行する通行パス(IATF ID、bona fide ID、RapidPass ID)を認識し、これらを所持していない者には、営業／操業が認められている事業所での勤務を確認できる提示を求める。
14. 貨物輸送は妨げられない。貨物輸送車のほか、公益事業者、IT-BPO 事業者、輸出主体の事業者が使用する車はIDシステムの適用対象外とする。
15. 給与支払手続きも極力オンライン対応を勧奨するものの、対応が難しい場合は、給与支払い業務のための出勤を認める。
16. その他の特例措置は、これまで大統領府から発出された IATF の決議等による。

### 第3節 修正を加えた、強化されたコミュニティ隔離措置 (Modified Enhanced Community Quarantine)

1. 本措置の施行期間中にわたり、保健省の定める公衆衛生基準を順守しなければならない。
2. 各世帯で厳格な隔離措置が行われるとともに、移動は生活維持に必要な不可欠な物資やサービスを利用するか、後述する業務の事業所で勤務するためだけに限定される。
3. 21歳未満または60歳以上の者、免疫不全や合併症等の健康リスクを持つ者、妊婦、これらの者と同居する者は、生活維持に必要な物資やサービスを利用したり、認可された事業所で勤務したりするために必要な場合を除いて、自宅にとどまるものとする。
4. 以下の業種は、通常(100%)の人員体制で営業／操業できる。
  - a. 第2節第4項で営業／操業が認められている事業所や活動
  - b. PCOOの認可を受けていない報道事業者
  - c. IT-BPO企業と輸出企業。事業所内または近隣での宿泊施設手配は不要。
  - d. 電子商取引事業者
  - e. 第2節第4項以外の郵便、クーリエ、配達サービス
  - f. レンタル・リース(認可事業者への車や機器等の賃貸。不動産の賃貸を除く)
  - g. 認可業種向け人材サービス(採用など)
  - h. 電気工事や外装工事等のハウジング・サービス
5. 以下の業種については、事務所、事業所、個人が通常の50%以下で営業／操業することを認める。なお、在宅勤務やフレキシブルな勤務形態の導入を勧奨する。
  - a. その他の製造業
    - ・飲料(アルコール飲料を含む)
    - ・電気機械
    - ・木製品、家具
    - ・非金属製品
    - ・繊維製品、衣料品
    - ・タバコ製品
    - ・紙及び紙製品
    - ・ゴム製品、プラスチック製品
    - ・コークス、精製した石油製品
    - ・その他の非金属鉱産品
    - ・コンピュータ、電気製品、光学製品
    - ・電気器具
    - ・機械、器具
    - ・自動車、トレーラー及びセミトレーラー
    - ・その他の輸送機械
    - ・その他
  - b. その他の不動産事業
  - c. オフィス管理、オフィスサポート等のビジネス活動(コピー、請求書発行など)
  - d. 第2節第4項以外の金融サービス(両替、保険、再保険、非強制の年金基金)
  - e. 法務、会計サービス
  - f. 経営コンサルタント
  - g. 建築、エンジニアリング、関連する技術的なテスト及び分析
  - h. 科学研究開発
  - i. 海外での就業に関する人材サービス(採用、あっせん)
  - j. 広告、マーケティング
  - k. コンピュータ・プログラミング、情報マネジメント・サービス活動
  - l. 出版・印刷サービス
  - m. 映画、音楽、テレビ番組の制作
  - n. 写真、各種デザイン

- o. 乗り物(車)及び部品の卸売・小売
  - p. 乗り物(車)及び部品の修理・メンテナンス、洗車サービス
  - q. ショッピングモール、商業施設。ただし、貿易産業省のガイドラインに従う。第13項参照
  - r. レストラン(配達とテイクアウトのみ)
  - s. ハードウェア販売店
  - t. 衣料品、アクセサリ販売店
  - u. 書店、学校用品店、オフィス用品店
  - v. ベビー用品店
  - w. ペットフード、ペット用品の販売店
  - x. 情報通信機器、電気機器の販売店
  - y. 花、宝飾品、ノベルティグッズ、アンティーク、香水の販売店
  - z. 玩具店(ただし、子供向けプレイルームやアミューズメント施設は閉鎖)
  - aa. 火器と弾丸の取引所(当局指示を厳格に順守すること)
  - bb. 牧師や祈禱師など聖職者による家族向け宗教サービス(冠婚葬祭など。ただし、ソーシャルディスタンス確保、マスク着用など十分な衛生管理を行うこと)
6. 政府機関、地方自治体は、感染対策等の重要な業務に必要な最小限の出勤体制で運営し、他の職員は(在宅勤務など)代替的な方法で勤務する。
7. 外務省に認可された外交団と国際機関は最小限の出勤体制で運営できるが、(在宅勤務など)代替的な勤務形態の導入を強く勧奨する。
8. 観光省の認可を得たホテル等の宿泊施設は、以下の者に対して、最小限の人員体制で、宿泊サービスを提供できる。ただし、レストラン、バー、ジム、スパ等の施設内付属施設による宿泊客向けサービスは認められない。また、宿泊施設が、宿泊客に同じ弁当を配ったり、テイクアウトや配達サービスの注文を受けたりすることは認められる。
- a. ルソン地方において2020年3月17日時点で予約を確保していた外国人、またはルソン地方以外において2020年5月1日時点で予約を確保していた外国人
  - b. すでに長期の宿泊予約を確保していた者
  - c. 困窮したOFW(フィリピン人の海外就労者)、身動きの取れないフィリピン人や外国籍の者
  - d. フィリピンに帰還し、所定の隔離措置を受けるOFW
  - e. OFW以外で、強制的な隔離措置を行う必要がある者
  - f. 保健関係者など、政府が営業/操業を認めている業種に従事する者
9. 映画上映会、コンサート、スポーツ行事など、未承認/不要不急/娯楽目的の集会は禁止する。ただし、保健省の公衆衛生基準を順守して開催される、政府や人道支援活動に関する集会はこの限りではない。IATFが緩和するまで、宗教関連の集会は5名以下に限定される。
10. 対面形式の授業は中止する。
11. 公共交通は運休とする。ただし、新型コロナウイルスの感染対策に従事している関係者の輸送、認可された事業者の従業員送迎サービスはこの限りではない。
12. 運輸省のガイドラインの下で、外出認定者が利用する民間事業者のシャトルバスや自家用車は運行が認められる。自転車など動力装置のない移動手段の利用を強く勧奨する。
13. 娯楽を目的とする事業所とサービスを除き、ショッピングモールと商業施設の営業を限定的に認める。営業可能な店舗やサービスは本節第4~5項に挙げた業種に限る。また、21歳未満または60歳以上の者、免疫不全や合併症などの健康リスクを有する者、妊婦、及びこれらの者と同居する者の進入は、必要不可欠な物資の調達やサービスの利用または商業施設内での勤務を除き、認められない。IATFが緩和するまで、商業施設は貿易産業省のガイドラインに沿って運営される。

※ 貿易産業省 覚書回覧 MC20-21(2020年5月4日発出)

[https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/05/040520\\_MC2021.pdf](https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/05/040520_MC2021.pdf)

14. 第2節に挙げたほか、必要不可欠で優先度の高いプロジェクトの建設工事も、公共事業道路省の建設安全ガイドラインを遵守することを前提として、認められる。ただし、公共事業道路省が小規模と定義したプロジェクトの工事は認められない。

※ 公共事業道路省 建設安全ガイドライン(2020年5月19日発表、改訂版)

[https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/05/DO\\_39\\_s2020.pdf](https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/05/DO_39_s2020.pdf)

15. MECQにおいては、以下の営業を禁止する。
- a. 観光施設(遊泳場など)、旅行の予約など関連サービス
  - b. 娯楽産業(映画館、劇場、カラオケ・バーなど)
  - c. 子供向けアミューズメント産業(プレイルーム、遊具など)
  - d. 図書館、美術館、博物館、その他の文化的施設
  - e. フィットネスジム、スポーツ施設
  - f. パーソナル・ケア(マッサージ、サウナ、美顔、ワックスなど)
16. 給与支払に関する規定、RapidPassシステム、政府公用車の使用、人道支援関係者や官民の従業員に発行されるIDカードについては、MECQでもECQと同じルールが適用される。
17. マスク着用、ソーシャルディスタンスの確保といった保健省の定める公衆衛生基準を順守することを前提として、ウォーキング、ジョギング、ランニングや自転車など、屋外における個人の運動は認められる。
18. その他については、ECQに準ずる。

#### 第4節 一般的なコミュニティ隔離措置 (General Community Quarantine)

1. 本措置の施行期間中にわたり、保健省の定める公衆衛生基準を順守しなければならない。
2. 移動は生活維持に必要な不可欠な物資やサービスを利用する場合、後述する業務の事業所で勤務する場合、いずれかの場合に限定され、娯楽目的の移動は一切禁止される。
3. 21歳未満または60歳以上の者、免疫不全や合併症等の健康リスクを持つ者、妊婦、これらの者と同居する者は、生活維持に必要な物資やサービスを利用したり、認可された事業所で勤務したりするために必要な場合を除いて、自宅にとどまるものとする。
4. 政府機関は、代替的な勤務形態が敷かれている場合を除き、通常(100%)の人員体制で運営できる。職員に出勤を求める場合は通勤シャトルサービスを手配してもよい。
5. 外務省に認可された外交団と国際機関は通常の50%の人員体制で運営できるが、フレックスタイムや在宅勤務など代替的な勤務形態の導入を強く勧奨する。
6. 第2節第4項で営業／操業が認められた業種は、すべて通常(100%)の人員体制で営業／操業を行うことが認められる。さらに、以下の業種についても、所定の条件下で営業／操業を認める。なお、以下は例示であり、各業種の詳細な営業／操業再開要件は貿易産業省が別途定める指針による。
  - a. 第1種産業カテゴリー(100%)  
電力、エネルギー、水道などのユーティリティ、農林水産業、食品製造業及び食品のサプライチェーンに関わる事業(スーパーマーケットや食料品店のような小売店、テイクアウトや配送サービスを通じた飲食店、食品配送サービス、健康管理に関する店舗、物流、IT、通信、報道事業)。
  - b. 第2種産業カテゴリー(50~100%。ただし、代替的な勤務形態を極力導入すること)  
鉱業、製造業、電子商取引、配送、維持管理・修理、住宅やオフィスの運営維持に関するサービス。
  - c. 第3種産業カテゴリー(最小限の人員体制による営業／操業~最大50%。可能な限り、代替的な勤務形態を極力導入すること)  
金融サービス、法務・会計・監査サービス、娯楽以外の専門的／科学的／技術的なサービス、理髪店及び美容室の限定的な営業(基本的な整髪サービス)、娯楽以外の卸売店・小売店。

※ 貿易産業省 理髪店と美容室における衛生管理ガイドライン(2020年5月29日発表)

[https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/06/290520\\_Guidelines\\_Barbershop\\_Salons.pdf](https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/06/290520_Guidelines_Barbershop_Salons.pdf)

7. 娯楽を目的とする事業所とサービスを除き、ショッピングモールと商業施設の営業を限定的に認める。営業可能な店舗やサービスは本節第4~5項に挙げた業種に限る。また、21歳未満または60歳以上の者、免疫不全や合併症などの健康リスクを有する者、妊婦、及びこれらの者と同居する者の進入は、IATFが緩和するまでは、必要不可欠な物資の調達やサービスの利用または商業施設内での勤務を除き、認められない。商業施設は貿易産業省のガイドラインに沿って運営される。

※ 貿易産業省 覚書回覧 MC20-21(2020年5月4日発表)

[https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/05/040520\\_MC2021.pdf](https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/05/040520_MC2021.pdf)

8. 官民を問わず、全ての建設プロジェクトを進めることができる。工事に当たっては、公共事業道路省の建設安全ガイドラインに従うこと。

※ 公共事業道路省 建設安全ガイドライン(2020年5月19日発表、改訂版)

[https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/05/DO\\_39\\_s2020.pdf](https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/05/DO_39_s2020.pdf)

9. アミューズメント施設、ゲーム産業の施設、フィットネス施設、子供向け産業や観光産業等の第4種産業(貿易産業省の文書を参照)は営業/操業を禁じる。第4種産業の具体的な内容については、貿易産業省が別途発出した文書を参照されたい。

※ 貿易産業省 覚書回覧 MC20-22(2020年5月5日発表)

[https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/05/050520\\_MC2022.pdf](https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/05/050520_MC2022.pdf)

10. 観光省の認可を得たホテル等の宿泊施設は、以下の者に対して、最小限の人員体制で、宿泊サービスを提供できる。ただし、レストラン、バー、ジム、スパ等の施設内付属施設による宿泊客向けサービスは認められない。また、宿泊施設が、宿泊客に同じ弁当を配ったり、テイクアウトや配達サービスの注文を受けたりすることは認められる。
- ルソン地方において2020年3月17日時点で予約を確保していた外国人、またはルソン地方以外において2020年5月1日時点で予約を確保していた外国人
  - すでに長期の宿泊予約を確保していた者
  - 困窮したOFW(フィリピン人の海外就労者)、身動きの取れないフィリピン人や外国籍の者
  - フィリピンに帰還し、所定の隔離措置を受けるOFW
  - OFW以外で、強制的な隔離措置を行う必要がある者
  - 保健関係者など、政府が営業/操業を認めている業種に従事する者
11. GCQ 施行期間中は、対面形式の授業を中止する。ただし、(学校の)2020/2021年度において、以下のとおり。
- 基礎教育(教育省の「基礎教育継続計画」による)
    - 2020年8月24日に始業、2021年4月30日に終業。
    - 私立学校の始業日は法律の定める範囲内で認められる。2020年8月24日以前の物理的な授業は不可、同日以降は感染リスクが然るべきレベルまで低下し、所要の保健関連基準を順守できることを確認できれば授業を行うことができる。
    - その地域の感染リスクのレベルに応じて、遠隔教育など代替的な教育手段を援用する。
    - オンライン形式を除き、教育関連の各種行事、学校のスポーツ活動、大学での報道活動、就職関連行事などは中止する。
  - 高等教育[CHED(高等教育委員会)の高等教育機関向け勧告による]
    - オンライン教育は随時開始可能、フレキシブル・ラーニングは2020年8月から開始可能、物理的な授業は2020年9月1日以降に開講可能。
    - 私立の高等教育機関は2020年8月以降の開講を勧奨。
12. 映画上映会、コンサート、スポーツ行事など娯楽目的の集会、地域コミュニティの集会、不要不急のビジネス関連の大規模な集会は禁止する。ただし、保健省の公衆衛生基準を順守して開催される、政府や人道支援活動のための集会はこの限りではない。IATFが緩和するまで、宗教関連の集会は10名以下に限られる。
13. マスク着用、ソーシャルディスタンスの確保、道具の共用を避けるといった保健省の公衆衛生基準を順守することを前提として、ウォーキング、ジョギング、ランニングや自転車、ゴルフ、水泳、テニス、バドミントン、乗馬、射撃、スケートボードなど、屋外における、他者との接触のない運動は認められる。本項の活動については、本節第3項は適用されない。これらの運動に関するクラブハウスのような施設があれば、基本的な運営は認められる。
14. 道路、鉄道、航路、空路での公共交通は、運輸省のガイドラインに従って、輸送人員を減らし、乗客間の間隔を必ず1m以上確保した状態で、運行する。

※ 運輸省のガイドラインは【参考2】として後掲。

## 第 5 節 修正された、一般的なコミュニティ隔離措置 (Modified General Community Quarantine)

1. 本措置の施行期間中にわたり、保健省の定める公衆衛生基準を順守しなければならない。
2. 移動は、生活維持に必要な不可欠な物資やサービスを利用する場合、後述する業務の事業所で勤務する場合、本節で認めるその他の場合のいずれかに限定される。
3. 21 歳未満または 60 歳以上の者、免疫不全や合併症等の健康リスクを持つ者、妊婦、これらの者と同居する者は、生活維持に必要な物資やサービスを利用する場合、認可された事業所で勤務する場合、本節で認めるその他の場合を除いて、自宅にとどまるものとする。
4. マスク着用やソーシャルディスタンスの確保、道具の共用を避けるなど、保健省の公衆衛生基準を順守することを前提として、屋内と屋外を問わず、他者との接触のないスポーツ(ウォーキング、ジョギング、ランニングや自転車、ゴルフ、水泳、テニス、バドミントン、乗馬、射撃、スケートボードなど)を行うことができる。本項の活動については、本節第 3 項は適用されない。
5. 映画上映会、コンサート、スポーツ行事など娯楽目的の集会、宗教に関する集会、ビジネス関連の会合は、会場収容能力または席数の半分以下に参加者を制限することを前提として認められる。
6. 高等教育機関における対面形式の授業は、要件(保健関連基準を順守でき、地方自治体の了解が得られ、CHED のガイドラインを遵守できる)を満たせば、限定的に行ってもよい。K-12 の基礎教育については、教育省の「基礎教育継続計画」が適用される。本項の活動については、本節第 3 項は適用されない。
7. 官民間問わず、全ての事業所は通常(100%)の人員体制で営業/操業できる。60 歳以上の者、免疫不全や合併症などの健康リスクを抱える者や妊婦には代替的な勤務体制を適用されたい。
8. 道路、鉄道、航路、空路での公共交通は、運輸省のガイドラインに従って、乗客間の間隔を必ず 1m 以上確保した状態での運行が認められる。
9. 私用の交通機関も、運輸省のガイドラインの下で、運行を認められる。
10. 官民を問わず、全ての建設プロジェクトを進めることができる。工事に当たっては、公共事業道路省の建設安全ガイドラインに従うこと。

※ 公共事業道路省 建設安全ガイドライン(2020 年 5 月 19 日発表、改訂版)  
[https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/05/DO\\_39\\_s2020.pdf](https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/05/DO_39_s2020.pdf)

11. 以下を除き、第 4 節第 6 項で営業/操業が認められた第 1~3 種産業カテゴリーの事業所は、全て通常(100%)の人員体制での営業/操業を認められる。
  - a. 理髪店、美容室、パーソナルケアサービスは店舗の半分以内で、営業を認める。
  - b. レストラン、ファーストフード店、(スーパーマーケット、食料品店、調理済食品販売店など)食品小売店内のイートインコーナーでは、席数の半分以下に限り、営業を認める。
  - c. 第 4 種産業カテゴリーと、上記以外の事業所は、通常の 50%以下の人員体制での営業/操業を認める。ただし、ホテル等の宿泊施設については、観光省と内務省の認可を得た事業所のみ営業を行うことができる。

※ 貿易産業省 レストランとファーストフード店の衛生管理ガイドライン(2020 年 5 月 31 日発表)  
[https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/06/310520\\_Guidelines\\_Dine-In-Restaurants\\_Fastfoods.pdf](https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/06/310520_Guidelines_Dine-In-Restaurants_Fastfoods.pdf)

12. 政府職員は通常(100%)の人員体制で運営できるが、代替的な勤務形態の併用も検討ありたい。
13. 外務省が認可した外交団と国際機関は、通常(100%)の人員体制での運営を再開できる。

## 第 6 節 隔離措置以降の感染対策

いずれの隔離措置も適用されていない地域は「ニューノーマル(感染症のまん延を防止するような新しい行動様式や基準。大規模な集会の禁止などが含まれるものと想定)」の状態となりうる。

## 第 7 節 ゾーン間、ゾーン内の移動に関するガイドライン

ゾーン: 隔離措置が同じ段階の地域

1. 陸路、海路、空路を問わず、また、隔離措置の段階(ECQ、MECQ、GCQ、MGCQ)を問わず、あらゆる貨物の移動は妨げられない。貨物輸送、トラック輸送、クーリエ配送、港湾運営など物流部門に従事する者も、貨物と同様に、自由に移動できる。全ての地方自治体は政府のルールを厳格に順守する。なお、陸上の貨物輸送では、貨物の積載の有無を問わず、最大 5 人まで乗務可能とする。

地方自治体や地方の保健機関は、貨物輸送車に乗務する無症状の運転手や同乗者に 14 日間の隔離措置を求めるなど、政府のルールと整合しない指示を出してはならない。また、貨物輸送車に乗員席を追加設置するなどして、乗員間で十分な間隔を確保できるよう徹底ありたい。なお、検問所では警察が求めるチェックを受けるものとする。

2. 以下の者は、あらゆる隔離措置段階の地域を自由に移動できる。政府の認可を受けたシャトルサービスは隔離措置の段階を問わず、ゾーン間の移動が認められる。特に、医療や緊急対応に伴う移動は優先される。
  - 1) 保健関係者、緊急の感染対策を担う者
  - 2) 政府職員及び感染対策を担う政府の現場関係者
  - 3) 人道的支援活動を行う者
  - 4) 医療または人道的な理由で移動する者
  - 5) 国際線に搭乗するために空港へ向かっている者
  - 6) 帰国した OFW、自宅に戻る在外フィリピン人
  - 7) 所定の隔離措置を経て政府や自治体が移送する者
  - 8) 通勤のために越境移動する者

(略)

OFW、海外留学生、人的交流の交換プログラム参加者、外国籍の永久居民、身動きの取れなくなった外国人、医療または人道的な理由で出国しようとする者は、どの空港または海港から出国しても良い。ただし、フィリピン人に入国制限を課している国へのフィリピン人の渡航はこの限りではない。出国者に随伴して空港または海港まで同行する者は、随行者が出発地まで戻ることを前提として、1 名まで認める。

(略)

3. 隔離措置の段階が異なる地域間でも、GCQ と MGCQ の地域間の移動であれば、レジャー以外の目的である限り、認められる。
4. GCQ 適用地域と隔離措置が適用されていない地域との移動は、レジャー以外の目的であれば、認められる。
5. MGCQ と隔離措置が適用されていない地域の間は自由に移動できるが、現在のところ、観光目的の移動については、地方自治体や IATF ボラカイ支部の規制が適用される場合もありうる。

## 第 8 節 一般条項

1. 地方自治体は、MECQ、GCQ、MGCQ が施行されている地域において、政府のガイドラインに定めるルールが順守されるよう、就業者以外の外出を公平かつ人道的に取り締まる条例を設けられたい。



- あらゆる金融機関は、30 日以上、または隔離措置の解除日のいずれか遅い方まで、ECQ または MECQ の適用期間中に支払期限を迎えるローン返済、クレジットカード返済等について、無利子、ペナルティなしで、支払猶予措置を講じることになっている。

家賃についても同様に、賃借する個人や零細・中小企業が営業／操業できない場合、ECQ、MECQ、GCQ の適用期間中に支払期限を迎える家賃については、30 日間隔離措置のまたは解除日の遅い方まで、無利子、ペナルティなしで、支払いを猶予することになっている。

本項のルールは 2020 年 3 月 17 日に遡及して発効する。

※ 貿易産業省 覚書回覧 MC20-29(家賃の支払猶予、2020 年 6 月 2 日発表)

<https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/06/MC-20-29-Supplemental-Guidelines-on-the-Concessions-on-Residential-Rents-Commercial-Rents.pdf>

※ 貿易産業省 覚書回覧 MC20-30(イベント中止時の払い戻し、2020 年 6 月 2 日発表)

[https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/06/020620\\_MC2030.pdf](https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/06/020620_MC2030.pdf)

- それぞれの産業や事業所の営業／操業については、労働省と貿易産業省等が監督していく(特に、本ガイドラインに基づいた人員体制や衛生管理を点検)。
- 貿易産業省と労働省が共同で発表したガイドラインと保健省のガイドラインを基に、最小限の保健関連基準を順守されたい。保健省覚書 2020-0220 を踏まえ、職場に復帰する従業員に対する検査は営業／操業の再開条件ではない。

※ 貿易産業省・労働省 「職場における新型コロナウイルス感染防止・管理ガイドライン」

<https://www.covid19.gov.ph/wp-content/uploads/2020/05/DOLE-AND-DTI-GUIDELINES-ON-WORKPLACE-PREVENTION-AND-CONTROL.pdf>

※ 保健省 覚書 2020-0220 「暫定的な職場復帰ガイドライン」 (2020 年 5 月 11 日発表)

<https://www.doh.gov.ph/sites/default/files/health-update/dm2020-0220.pdf>

※ 労働省 勧告 18 「新型コロナウイルス対策費に関するガイドライン」 (2020 年 5 月 16 日発表)

<https://www.dole.gov.ph/news/labor-advisory-no-18-series-of-2020-guidelines-on-the-cost-of-covid-19-prevention-and-control-measures/>

- 全ての者は自宅から外出する際には必ずマスクを着用し、新型コロナウイルスの感染を防止するための防護を行うものとする。地方自治体は必要に応じて、これを徹底する方策を講じられたい。また、地方自治体はこれより、コミュニティ内での感染経路や感染者の行動履歴を特定できるよう、IATF が認める COVID-19 アプリ(StaySafe.ph と TanodCOVID)の使用を求められるので、アプリの導入に必要なルールを制定されたい。
- スーパーマーケット、公設／施設の生鮮市場、食料品店、農業・漁業に必要な資材の販売店、ペット用品店、薬局、ドラッグストアなど生活に必要不可欠な物資を販売する小売店舗は、その営業時間を最大 12 時間以内とする。地方自治体はこの営業時間を順守する事業者を認可し、特に生鮮市場についてはソーシャルディスタンスが十分確保されるよう監督ありたい。
- 新型コロナウイルス感染に伴って生じる、医療関係者や患者、OFW 等に対する風評や偏見等による不利益への対応

第 9～10 節 (略)

本ガイドラインは公示日(2020 年 6 月 3 日)より即時発効する。

【参考 2】 GCQ における公共交通運行ガイドライン(運輸省、2020 年 5 月 3 日発表)

**航空**

- ・ GCQ においては、次のフライトの運行を認める。
  - 1) 政府及び軍のフライト
  - 2) 当局の指示に従う国際便
  - 3) 救命及び医療物資の輸送便
  - 4) 空運のために必要な業務用のフライト
  - 5) 同上
  - 6) 緊急機(国内の GCQ 下にある地域との国内便)
  - 7) その他、当局が必要と認めるフライト
- ・ 全ての乗員は、マスク、フェイスシールド、個人防護服を着用すること。
- ・ 有効な旅行関連文書を所持している乗客のみが、検温を受けただうえで、空港施設内に進入できる。
- ・ 空港施設内ではソーシャルディスタンスを確保しなければならない。
- ・ X 線検査、携行スキャナー、携行金属探知機等の機器を使って、非接触の方法で、保安検査を行う。
- ・ 携行荷物の上限は厳格に適用される。
- ・ 空港施設内では、保健当局が認定する者が新型コロナウイルスに関する検査を行う。
- ・ 航空機～空港施設内、搭乗ゲートエリアなど、空港施設内の結節点には消毒用アルコール／ハンドソープが常備され、出入口には履物(靴裏)を洗浄できる消毒プールを設ける。
- ・ 空港施設内に安全に関する情報やポスターを掲示し、情報の周知を図る。
- ・ インターネット、ソーシャル・ネットワーク・サービス等も活用して乗客への周知徹底を図る。
- ・ 全ての出入国客は、電子的な方法によって健康状態申告(Health Declaration)と乗客位置情報(Passenger Locator Form)を登録する。

**海運**

- ・ 当局の基準により、定員の 50%以下に乗員数を抑制する。
- ・ 港湾施設に進入する際は、健康状態申告(Health Protocol Forms)を提出し、検温を行う。
- ・ 港湾施設内、船舶内ではソーシャルディスタンスを確保しなければならない。
- ・ 港湾施設内において、乗客ターミナル、港湾合同庁舎等は物理的な距離を確保しなくてはならない。
- ・ 建物、船舶等の結節点等に消毒プールやハンドソープを設置し、常に清潔な状態を維持する。
- ・ 安全管理に必要な情報が周知徹底されるようにする。

**道路**

- ・ 当局の認可を受けた全ての公共車両は、安全、乗員数、Coverage/Scope の 3 点を重視する。
- ・ 安全とは、運転手がマスクと手袋を着用し、車両やターミナル、乗客が十分消毒された状態を確保し、ウイルスの感染と拡大を防止することである。
- ・ 乗員数とは、乗員がお互いに物理的な距離を確保できる乗員数である。
- ・ 公共交通として使用されるバスとジープニーは、運転手と車掌を除き、定員の 50%以下を厳守する。
- ・ 乗り合いタクシーやタクシーは、乗客席に 2 名を超える乗客を乗せてはならない。助手席に 1 名を乗せることはできる。
- ・ トライシクルはサイドカーに乗客 1 名のみを乗せても良い。
- ・ 私有の自動車とバイクは IATF が外出を認める者のみが乗用できる。
- ・ 私用の自動車は、助手席に 1 名、乗客席に 1 列当たり 2 名まで、乗客を乗せることができる。
- ・ バイクは運転手のみ乗用できる。他方で、自転車やそれに類する乗り物の利用は大いに奨励されるため、地方自治体は自転車等のレーンを設けるなど、奨励策を講じられたい。
- ・ GCQ 施行エリアの各ルートを実行する公共交通車両は、その車両の乗員数で決まる。
- ・ バスのように多くの乗員を乗せる公共交通車両は優先的に運行を認められる。バスや近代化ジープニーでカバーできないエリアはジープニーや乗り合いタクシーの運行が認められる。
- ・ 陸運局はすでに公共交通車両の運行に関する特別免許の発行準備を完了しており、運転手や運行会社はオンラインで陸運局に申請されたい(無料)。
- ・ 私有車の所有者、公共交通車両の運転手と運行会社、公共／私営の交通ターミナルの運営会社で、このガイドラインを遵守しないものは罰せられる。

## 鉄道

- ・ マニラ首都圏で ECQ が解除された後(または 5 月 16 日以降)、LRT1 号線、LRT2 号線、MRT3 号線と国鉄は限定した乗員数で運行を再開する。
- ・ ECQ 施行前のルールと新型コロナウイルス対策に関わる各種ルールを踏まえて、運行を再開する。
- ・ 駅や車両内では、1m 以上の間隔を厳格に確保する。そのために必要な標識等を設置する。
- ・ 保健当局のルールにより、以下の者は駅に進入できない。
  - マスクを着用していない者
  - 新型コロナウイルスの感染症状がみられる者、37.8 度以上の熱がある者
  - 高齢者、20 歳以下の者、妊婦
- ・ 車両、駅構内等の消毒を励行し、消毒プールやハンドソープを設置し、常に清潔な状態を維持する。

(出所) フィリピン運輸省ウェブサイト

<http://dotr.gov.ph/55-dotrnews/1339-read-omnibus-public-transport-protocols-guidelines-set-by-the-department-of-transportation-dotr.html>

<https://www.facebook.com/DOTrPH/>